

各位

コモンズ投信株式会社
代表取締役社長 伊井哲朗
東京都千代田区平河町 2-4-5

～ ザ・2020 ビジョン「第5期 コモンズ POINT（ポイント）障がい者スポーツを応援するプログラム」の応援先を（一社）日本知的障害者水泳連盟に決定いたしました ～

このたび、コモンズ投信株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：伊井哲朗、以下「コモンズ投信」）は、当社の顧客、投資先、その他ステークホルダーと共に「今日よりも良い明日」をつくるという創業理念に基づくファンド「ザ・2020 ビジョン」の寄付プログラム、コモンズ POINT（障がい者スポーツを応援するプログラム）の第5期（ファンドの決算に合わせて第5期としています）応援先を、（一社）日本知的障害者水泳連盟に決定致しましたので下記にお知らせいたします。

記

1. コモンズ POINT（障がい者スポーツ応援プログラム）について

当社運用ファンドであるザ・2020 ビジョンは、2020 年を起点として日本が大きく変わる、その「変化」をファンドを通じて皆さんと共有していきたいとの思いから設定されました。

大きな「変化」の一つは、東京では2020年に四人に一人が65歳以上になることが予想され、世界でもっとも高齢化が進む都市になることです。そして、同時に2020年は東京でオリンピックとパラリンピックが開かれる年でもあります。障がい者スポーツに理解が深まれば、社会的なダイバーシティ（多様性）への理解が深まり、バリアフリーやヒートアイランド対策も進むはずで、それは同時に、世界でもっとも高齢化が進む都市が、高齢者にとっても住みよい都市となり、今後、世界の主要都市が高齢化する中で、日本が貢献できる分野も飛躍的に増えると考えています。そこで、当ファンドから当社が受け取る信託報酬の1%程度を日本の障がい者スポーツの団体を応援する独自の応援プログラムとして、コモンズ POINT を設けました。

※ファンドからの拠出ではありません。

2. 応援先決定プロセスと団体概要

○選定基準

- ・ 障がい者スポーツの振興に取り組み、日本のダイバーシティ推進に活躍が期待される個人及び団体。
- ・ 資金使途など、財務内容のディスクロージャーがしっかりとされていること。

○選定方法

①最終候補者を事務局となる当社で選出した後、「ザ・2020 ビジョン」の受益者及び当社社員から、自分が推薦したい候補者を選び、理由と共に事務局に提出。

今期の寄付のしくみ POINT 最終候補3競技団体

●「特定非営利活動法人 日本パラ・パワーリフティング連盟」(新)

●「一般社団法人 日本知的障害者水泳連盟」(新)

●「特定非営利活動法人 日本視覚障害者柔道連盟」(継続)

* 日本視覚障害者柔道連盟は、第2期、3期、4期 POINT 応援先。

②外部審査員を含む最終選考委員会を開催し、受益者及び当社社員からの推薦理由も参考に応援先を決定しました。

○最終選考委員会メンバー

●小澤直氏 (日本財団パラリンピックサポートセンター 常務理事)

●垣内俊哉氏 (株式会社ミライロ 代表取締役社長)

●田口亜希氏 (日本郵船株式会社 広報グループ 社会貢献チーム・パラリンピアン)

●渋谷健 (コモンズ投信株式会社 取締役会長)

●伊井哲朗 (コモンズ投信株式会社 代表取締役社長)

●馬越裕子 (コモンズ投信株式会社 寄付のしくみ POINT 担当)

○今回の決定理由

これまでコモンズ POINT では日本視覚障害者柔道連盟を応援し、大会の観戦をはじめ、日本視覚障害者柔道をより多くの方々にご紹介いただくために、ファンドの月次レポートで毎月同連盟の活動をご紹介、また、当社主催のイベントでも監督や選手、事務局の方にご登壇いただくなど、寄付だけでなく広報にも協力させていただきました。

同連盟は当社からの寄付金を活用して、「こども向け体験イベント」を昨年実現されました。当社社員もイベントスタッフとして参加するなど、この2年間で多くの場面で一緒する機会に恵まれ、連盟や選手のみならずとの交流を重ねることができました。視覚障害者柔道の存在、選手たちの活躍、そして競技環境などについても、当社の受益者のみならず共に知ることができました。

この度の選定では、ファンド受益者と全社員の推薦の声を参考に、最終審査委員会で外部審査員の方のご助言もいただきながら検討を重ねた上で、日本知的障害者水泳連盟を新たな応援先として決定いたしました。

「知的障害の選手たちは、一見障害が見えにくい。競技などで好成績を残したり、残念な結

果を出しても、インタビューではその気持ちを上手に伝えることができない。そのためスポンサーもつきづらい」、そういったことを知り、「真に多様性のある社会とは、目に見えない障がいや価値観までも受容できるもの。そういう社会に変化して行ってほしい」という願いを届けてくれた推薦者もいました。

外部審査員からも同様の意見や、雇用などの問題において自立が最も難しい障害にある選手たちのサポートを、という助言の声もありました。

2020年以降の社会の「変化」を体現していく当ファンドの寄付のしくみにおいて、社会の狭間におかれがちな方々を支援していきたいという思いから、同連盟の活動を多くの方々に知っていただき、共に応援していただけるよう、努めて参ります。

黒田事務局長をはじめ連盟スタッフの方々は、これから一年間、大会などで選手の方々との交流の場も考えてくださっています。

ぜひ知的障害者水泳にご注目いただき、共に応援をお願いいたします。

また「応援の価値は継続にあり」という思いも変わりませんので、今まで応援してきました日本視覚障害者柔道連盟と、今回最終候補となった日本パラ・パワーリフティング連盟の広報協力にも引き続き尽力して参ります。

持続可能な社会に求められる真のダイバーシティの実現を目指して、障がい者スポーツ団体を応援します。

○第5期応援先概要

(一社) 日本知的障害者水泳連盟

〒107-0052

東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 4F

パラリンピックサポートセンター内

TEL : 03 - 6229 - 5425 FAX : 03-6229-5420 HP : <http://jsfpid.com/>

担当者 : 黒田岳史氏

○応援内容及びスケジュール

・「ザ・2020 ビジョン」から当社が受け取る信託報酬の1%程度を寄付する。

今期決算後に寄付 (2019年1月予定)。

・ファンドの月次レポートや当社のSNS、イベント開催などで広報の協力

○前年度【第4期】の報告

2018年1月、第4期応援先日本視覚障害者柔道連盟に対して寄付金額39万円を寄付いたします。

同連盟からの報告書を下記にご紹介いたします。

**** 事務局より ****

皆さまこんにちは。 NPO 法人日本視覚障害者柔道連盟です。

一昨年度に続き、2017 年度も「コモンズ POINT—障がい者スポーツ応援プログラム」の応援先に選定していただき、ありがとうございました。

8 月に東京国際フォーラムで開催されたキッズジャンボリーに参加致しました。視覚障害者柔道に初めて触れ合った子供達、その様子を見て「娘に視覚障がいがあるので是非始めさせたい」と後日連絡をくれたお母さまがいらっしゃいました。

また、11 月に講道館で行われた全国大会は、過去最高の観客数とメディア数となりました。皆様から頂いた寄付金での地道な活動が、少しずつではありますが実を結んでいるのだと感じております。

2020 年の東京パラリンピックまであと 2 年、いいえ、もう 2 年となりました。

選手達はメダルを目指してより一層練習に励み、事務局・スタッフ一同も選手達が万全の状態です。試合に臨めるよう、全力で走り続けます。

2018 年も皆様の応援をどうぞよろしくお願い致します！

**** 遠藤義安専務理事より ****

「皆さまの温かいご支援をいただいて臨んだリオ・パラリンピックでは多くのドラマを生み、帰国後には連日のように代表選手がマスコミ等に取り上げられ、また講演依頼も多数に上り、選手たちの休日返上での講演活動などによって視覚障害者柔道の普及・理解にも大きな役割を果たせたものと思っております。そのような中、早くも 2 年半後に東京パラリンピックが迫ってきております。国民的一大行事である東京オリンピック・パラリンピックに向け、皆さまの後押しをいただきながら当連盟一丸となり、多くのメダル獲得を目指して活動を続けております。

昨年 4 月から新たな体制にて選手強化への取り組みを始め、ウズベキスタン・タシュケントにて 10 月に開催された 2017 I B S A ワールドカップウズベキスタン大会へ選手 18 名（男子 13 名、女子 5 名）を派遣し、銅メダル 3 個を獲得しております。男子-81kg 北園新光、女子-48kg 半谷静香、女子-63kg 小川和沙の 3 選手が銅メダルを獲得、3 位決定戦で 3 名の選手が惜しくも敗退となっております。リオ・パラリンピック後、新体制になって最初の国際大会でしたが、各国共に新たな選手を育てて臨んでいる中での戦いで、予想以上の苦戦を強いられるものでした。

また、11 月 26 日(日)に講道館にて開催した第 32 回全日本視覚障害者柔道大会は、外国選手 25 名を招いての総勢 75 名を数える選手の参加となり、国際色豊かな大会となりました。外国選手の活躍には目覚ましいものがあり、日本選手の頑張りを期待して会場を埋め尽くした多くの観戦者には、東京パラリンピックは大丈夫なのかとの心配を抱かせるような日本選手の優勝階級が少ない結果となってしまいました。

このように不安材料がないわけではありませんが、新たな若手有望選手の発掘に加えて新人選手の代表入りもあり、しっかりと建て直しを図って東京パラリンピックに向けたと思っています。

国内での東京大会への機運も高まり、選手村などの計画、開会式が行われる国立競技場の形が徐々に見え始め、柔道競技の会場となる日本武道館の改修工事の内容も具体化してきています。開催国であることで、益々東京パラリンピックへ向けての責任の重さを痛感しているところでもあります。「礼に始まり礼に終わる」人間教育としての柔道を、障がい者スポーツを通して、多くの皆さま、特に日本の将来を担う若者、子供たちに夢と希望と感動を与えられるよう努力する所存であります。

引き続いての応援の程、どうぞよろしくお願いいたします。」

来る1月23日（火）開催の当社のイベントには、今回の最終候補3団体にお話をお聞きします。ぜひ奮ってのご参加お待ちしております。

コモンズくつろぎ新年会

～第5期 POINT 応援先が登場！～

日時：1月23日（火）19:00～21:00

会場：CAFE SALVADOR BUSINESS SALON（カフェ・サルバドルビジネスサロン）

東京都中央区日本橋茅場町1丁目5-8 東京証券会館1F

詳細：<https://www.common30.jp/seminars/detail/606>

以 上



お問い合わせ先：POINT担当 馬越裕子（03-3221-9230、yuko.umagoe@common30.jp）